

勉強会

質問や提案を作成するための勉強会を行いました。最初は緊張しましたが、希望する分野ごとのグループに分かれ、現在の状況や10年後の広島県について議論するうちに、すっかりうちとけて、笑顔や会話が生まれ、色々な意見が出てきました。

県職員からアドバイスをもらって質問をまとめていきました。

日時 7月17日(土)
場所 広島国際会議場



任命式

子供議員の代表者が、中本議長から任命書を、小林副議長から子供議員バッジを交付されました。

日時 10月23日(土)
場所 県議会議場



議員交流会

6つのグループに分かれて、普段あまり関わることのない県議会議員に色々な質問をしました。

日時 10月23日(土)
場所 県議会委員会室



参加した子供議員の感想

色々な学校の人と交流できて楽しかった。

議員の皆さんとお話できて、貴重な体験ができた。

色々な人の自分と違った意見を聞いて、一緒に考えることができてよかった。

議会や政治に興味を持つことができた。

自分の考えを他人に伝えるのはとても緊張したけど、自分に自信が持てた。

制作・発行 広島県 広島県議会

子供議会の模様はYouTubeで配信しています。



広島県議会事務局議事課
TEL 082-513-4731
E-mail gikaigiji@pref.hiroshima.lg.jp

〒730-8511
広島市中区基町10番52号
広島県環境県民局県民活動課
TEL 082-513-2740
E-mail kankatsudo@pref.hiroshima.lg.jp

広島県子供議会だより

令和3年度



広島県子供議会を開催しました。

これからの未来をつくる子供たちが、社会に関心を持ち、よりよい社会をつくるために何ができるかを考えるきっかけとするため、県と県議会が主催して「広島県子供議会」を開催しました。

県内の小学校5年生から中学校3年生までの31人の子供議員が、県や県議会の役割などを学んだ後、「10年後の広島県がこうだったらいいのになあ」というテーマでアイデアを出し合い、みんなで議論して、質問や提案にまとめました。

新型コロナウイルスの感染防止対策のため、お互いに距離を保ちながら、アクリル板越しの勉強会となり、話し合いが思うように進まなかったり、緊急事態宣言の発令により2回開催する予定であった勉強会が1回しか開催できなかったりしましたが、子供議員の事前の準備と粘り強い取組で、なんとか子供議会本番を迎えることができました。

当日は、県議会議員が実際に見守る中、湯崎知事や平川教育長などに対して、みんな大きな声で堂々と質問し、答弁を受けました。

閉会時には、湯崎知事から、「広島県の未来のために一生懸命考えて、しっかりと自分の意見を発言される姿を見て、とてもたのしく感じました。みなさんの意見や提案をしっかりと受けとめて、大いに参考にさせていただきます」と、今後の子供議員に期待する言葉がかけられました。また、中本議長から、「みなさんの立派な提案を聞きながら、県議会議員としてみなさんに負けないよう、そして、県民のみなさまのために全力でがんばっていこうと改めて思いました。みなさんもこの経験を生かして、今後も、さまざまなことに興味を持ち、チャレンジしてください。」と、激励の言葉がかけられました。

終了後、子供議員からは、「色々な学校の人と交流できて楽しかった。」「自分の考えを伝えるのは緊張したけど、自分に自信が持てた。」「議会や政治にとっても興味を持つことができた。」「色々な人の自分と違った意見を聞いて、一緒に考えることができてよかった。」などの声がよせられ、みんな達成感にあふれた表情をしていました。

令和3年10月23日



平和グループ

- 広島なぎさ中学校 有田 梨花 議員
- 広島県立広島敏智学園中学校 高原 沙理菜 議員
- 竹原市立竹原小学校 林内 惠理衣 議員
- 庄原市立庄原中学校 藤原 夏希 議員

質問 平和ボランティアガイドに、県内全域から中学生も積極的に応募し参加できるよう、平和ボランティアガイドを育て、活躍できる機会を提供してはどうか。

答弁 国際社会で自らの考えを積極的に発信する力を養うため「グローバル未来塾inひろしま」等を開催し、次世代の人材育成に取り組んでいる。国際会議やイベントなどでのボランティアや若者の人材育成プログラムの聴講(きようこう)も、中学生による平和活動のウェブサイトでの紹介など、中学生を含め若い人たちに平和に関する幅広い活躍の場を提供できるよう検討していく。

中学生による平和ボランティアガイド

質問 県内の様々な地域に住む被爆者の方々に当時の様子等を聴き、それを基に劇を作って発表してはどうか。

答弁 提案のような活動は、自分事として学びを深めるだけでなく、多くの人に平和について考えてもらう機会となる。素晴らしい取組だと考える。県教育委員会では、中学生や高校生を対象に、「ワールドピースゲーム」という体験プログラムを実施した。高校生による実行委員会を中心となって、世界的な高校生と平和について考えるためのウェブサイトを開発したり、高校生国際会議を英語で運営したりした。異なる文化や考え方を持つ人たちの「違い」を理解し、共に平和についてディスカッションしながら考えていくことも、これからの平和学習には必要ではないか。皆さんも、タブレットなどを活用してウェブサイトの取組も確認しながら、どのような平和が望ましいのか考えてみてほしい。

広島市以外での平和学習



交通・地域振興グループ

- 安芸高田市立高宮小学校 久保田 悠一 議員
- 呉市立明徳小学校 濱村 圭夏 議員
- 福山市立神村小学校 博多 祐之介 議員
- 広島なぎさ中学校 園田 佳孝 議員

質問 広島空港へのアクセスをよくするため、リムジンバスの便数を増やしたり、空港を便利にするため、飛行機の便数も増やしてはどうか。

答弁 広島空港をもっと便利にしたいため、広島方面からのバスの便数や新たなバス路線、国内や海外を直接結ぶ航空路線を増やすことなど、空港自体が楽しい施設となるよう計画している。

広島空港の利用拡大

質問 歩きスマホによる事故対策として、横断歩道の路面に信号を埋め込んでもどうか。LED式信号を設置するときは、住んでいる人や地域の実情に配慮してはどうか。

答弁 歩きスマホは危険な行為である。誰もが安全に道路を通行できるよう、スマートフォンの安全な利用をお願いしたい。信号を設置するときは、周辺環境や利用される方への配慮が非常に大切であり、雪や風の影響を受けにくいLED式信号や音響式(おんきやうしき)信号機の設置などに取り組んでいる。

埋め込み信号と信号機のLED化

質問 廃校など使われなくなった施設を利用して、科学館、オフィス、カフェなど、市町と協力が人が集まる場所にしてはどうか。

答弁 平成29年に開催した「ひろしまとやま未来博」では、廃校などを改修し、現在も地域の交流拠点として活用されているほか、空き施設などを首都圏(しよとけい)の企業に勤務体験ができる施設として提供するなど、施設の有効活用が地域の活性化につながるよう、市町と協力して取り組んでいく。

使われない施設を活用した地域活性化

質問 身近で手軽にスポーツができる施設を整備するなど、子供たちが色々なスポーツができる環境づくりをしてはどうか。

答弁 県内のスポーツ施設を活用した様々な体験プログラムの実施や既存(きぞん)の体育施設を地域に開放するなどの取組を行っている。また、「スポーツアクティベーションひろしま」という組織を立ち上げ、スポーツを通じた地域活性化に取り組むなど、夢を持ってスポーツにチャレンジする子供たちを全力で応援していく。

スポーツの振興



学校・教育グループ

- 広島市立広島中等教育学校 福田 陽菜 議員
- 福山市立樹徳小学校 藤田 結悟 議員
- 広島県立広島中学校 馬屋原 七恵 議員
- 広島市立中筋小学校 浅沼 紗羽 議員
- 安芸高田市立八千代中学校 横原 佳乃 議員

質問 一人1台のパソコンが整備された環境を最大限生かし、学校の授業や活動においてもパソコン、タブレットを活用することで、学習内容を充実してはどうか。

答弁 一人1台のパソコンの整備によって、児童生徒の皆さんがデジタル機器を日常的に活用しながら、自ら積極的に学ぶことを目指している。子供たちが学習計画表を自分で作り、教科書やAI型タブレット教材等、多くの選択肢の中から自分に合った学習方法を選択し、自分のペースで学ぶ自由進歩学習を行う小学校もある。デジタル機器を使った様々な学びにチャレンジするとともに、このような使い方で学びたいと先生に提案してみしてほしい。

ICTを活用した授業の充実

質問 意欲があり実力もある中学生が、留学したいという願いをかなえることができるように、留学のための助成金を充実してはどうか。

答弁 県教育委員会では、これまで高校生の留学費用を助成する制度や無利子で留学奨学金としてお金を貸す制度を設け、成績が一定基準以上で意欲のある生徒全員に留学のための支援をしてきた。また、中学生も参加できる留学経験者との交流を行うオンラインイベントの開催や県教育委員会のホームページで色々な会社が行う無料のオンラインプログラムを紹介している。中学校では、職場体験を5日間しっかりと行う取組を進めてきた。コロナ禍(か)の現在は、オンラインで学校と企業(きやう)をつなぐ出前授業を行い、職場の様子を見せたり、生徒の質問に直接答えたりなどの工夫をしている学校もある。進路に関する色々な情報を調べ、自分の目で確かめ、その場に身を置いてみて自分自身が決断することも大切である。

子供たちの夢の実現に向けた支援

質問 性的指向・性自認に関するマイノリティの認識が広がっている。性別を問わない施設・設備の増設や希望する形で健診等を行う環境づくりと啓発(けいぱつ)の取組を強化してはどうか。

答弁 エソール広島の相談窓口に寄せられた内容も踏まえ、イベントやホームページ等を通じて、正しい知識や多様性を認め合う意識啓発を進めていく。また、男女の区別のないトイレの設置等、配慮ある取組が進められており、事例の共有等、環境づくりを強化していく。匿名で気軽に会話できる場については、民間のオンラインチャットや、性的少数者の支援団体による場の設置など、民間の主体的な取組が広がるよう、事例紹介など必要な支援策を検討していく。

多様性を尊重し自分らしく生きていける社会づくり(環境づくり)

質問 小学校や中学校で、マイノリティについて理解を深めることができるような教育を行ってはどうか。

答弁 県立学校では、LGBTQの当事者に体験等を講演していただく取組を始めている。今後も、そのような機会を増やし、一人でも多くの児童生徒が、多様性について理解を深めていけるよう支援していく。

多様性を尊重し自分らしく生きていける社会づくり(学校教育)

質問 県内どこに住んでいても子供の医療費が無料になるよう取組んでいくか。

答弁 県では子供の医療費について、早期受診による健康保持と子育て家庭の経済的負担軽減のため、就学前の子供を対象に1回500円まで負担していたが、制度にしている。無料化した場合、社会保険費の増加等、県民の様々な負担が増えることも心配され、慎重な検討が必要と考えている。乳幼児期の支援については、地域全体で全ての子育て家庭を見守る「ひろしま版ネボラ」の構築を進めている。また、保育の無償化は、より良い保育環境の整備と合わせて行われるよう、国に要望している。

安心して子育てができる社会づくり



人権・福祉グループ

- 広島県立広島敏智学園中学校 野元 純伶セイヤ 議員
- 広島県立広島中学校 碓井 愛美 議員
- 広島県立広島敏智学園中学校 黒瀬 陽音 議員
- 広島県立広島中学校 光永 佳加 議員
- 安芸高田市立八千代中学校 岩下 実咲 議員
- 呉市立中山中学校 田中 絆孝 議員



自然・環境グループ

- 東広島市立豊栄小学校 奥田 梨央 議員
- 広島市立古田中学校 坂根 鈴音 議員
- 福山市立福山中学校 川相 華穂 議員
- 福山市立樹徳小学校 日崎 奏介 議員
- 広島市立安佐中学校 茂木 翔太郎 議員

質問 オオサンショウウオが通れる道や魚道の整備など、生物の良好な生育環境を保全するための工夫を行ってはどうか。

答弁 河川改修を計画する際には、事前に調査しており、アユの遡上(さかのぼり)に配慮した魚道の整備(沼田川)や、護岸にオオサンショウウオの巣穴を作る(長瀬川)など、野生生物に配慮した整備を行っている。県内の自然公園での自然とふれあうためのアクティビティなどの機会の提供、子供向けの環境学習ツアーなどを実施している。引き続き、自然のことをより知るための取組を充実させていきたい。

希少な野生生物の保全

質問 河川の清掃などを行っているボランティア団体や企業などに支援を行ってはどうか。

答弁 住民や企業などの皆さんが、河川や道路の清掃などを自主的に行う活動を支援する「広島県アダプト制度」を作っている。この制度の拡充(ひろく)やPR活動を進め、河川の美化やゴミのポイ捨て問題に対する県民の意識を高められるよう取り組んでいく。企業等に対して自然への影響を抑えた製品の開発や使用を促進するための支援をしてはどうか。

ゴミのポイ捨て

質問 カキ殻を使用した特産品を作ったり、カキ殻を利用した新たな製品ができるよう、大学や企業等に対して開発支援を行ったりしてはどうか。

答弁 カキ殻は、鶏のえさや海の魚を増やすための魚糞(きょふん)の材料、農作物の土づくりなどに利用されている。幅広い企業の皆さんと一緒に海ごみ対策を考え、行動するための組織を設立し、海で分解するプラスチック製品の開発や紙など別の素材で作った製品への切替えに取り組んでいる。また、リサイクルや廃棄物を減量化・処理する技術開発を進めるため、大学等と連携(れんけい)して研究開発に取り組む企業に対し、補助金による支援を行っている。引き続き、積極的に企業を支援し、カキ殻を設立した資源の有効活用が進むよう取り組んでいく。

カキ殻の新たな再利用



防災・街づくりグループ

- 福山市立樹徳小学校 近藤 利奈 議員
- 安芸高田市立高宮小学校 上田 匠真 議員
- 竹原市立中道小学校 伊藤 成史 議員
- 呉市立両城中学校 金本 浩一 議員
- 広島県立広島中学校 高畑 凜音 議員
- 修道中学校 西村 颯真 議員

質問 自力避難困難者の手助けや避難所生活の不安解消に取り組むとともに、防災を学べるイベントを開催してはどうか。

答弁 高齢者の避難計画づくりや避難訓練を支援しているほか、避難所のマニュアル作りを進めている。防災イベントや訓練を効果的に行うとともに、自らの防災行動計画「ひろしま・マタタイムライン」の作成について、小学校での出前講座を行う等、適切な避難行動が行われるよう取り組んでいる。

適切な避難(ひなん)に向けた取組

質問 砂防ダムや堤防(ていぼう)、がけ等を定期的に点検して、補強する対策を強化してはどうか。

答弁 ダムや堤防等は、計画に基づいて定期点検を行い、補修・補強しているほか、がけ崩れを防止する施設の整備や、防災情報の発信に取り組んでいる。

災害の未然防止

質問 県道等の雑草の除去に、温水除草システム等の環境に配慮した仕組みを導入してはどうか。

答弁 温水除草システムは、大変有効だと考えられるので、試験的に実施し、効果を検証していく。こうした取組を市町にも情報共有し、協力しながら環境に配慮した街づくりに取り組んでいく。

道路除草等の新たな仕組み

質問 身近な公園で、ルールを定めてボール遊びができるよう市町に働きかけたり、県でも整備してはどうか。

答弁 身近な公園整備は、市町が、地域の状況や利用者の意見を踏まえて取り組んできた。今後も、市町と協力し、誰もが安心して利用しやすい公園づくりを進めていく。

子供たちが利用しやすい公園整備

質問 喫煙(けつえん)が引き起こす身体への影響について正しい知識を身に付けてもらうための取組を、力強く進めてもらいたい。

答弁 県では受動喫煙から子供を守るため、学校の敷地内完全禁煙等、法を上回る規制を設けて取り組んでいる。また、新たに成人となる世代や、喫煙者への啓発を行うなど、受動喫煙のない社会の実現に向けて取り組んでいく。

受動喫煙(じゆうけつえん)の防止